

検討項目リスト

<p>1、地域通貨を始める目的は。</p> <p>1) 地域を豊かにするという理念は共通していますが、相互扶助、商店街活性化、環境など通貨の使われ方は様々です。</p>
<p>2、会員制をとるのか、とらないか。</p> <p>1) 会員制をとることにより、会員の具体的なサービス内容が確認できます。</p> <p>2) 会費を取ることにより、電話代や資料代を無理なく活用することができます。</p> <p>3) 電話代のほかにボランティア保険の代金に充てているところもあります。</p> <p>4) 1000円～2000円の年会費を取っているところが多いようです。</p>
<p>3、コーディネーター(調整役)をおくか、必要が無いか。</p> <p>1) 会員が個人取引をするのが理想ですが、サービスをうまくマッチングする人をおいている例もあります。</p> <p>2) コーディネーターを置かず、定期的に懇談会等を開催し、その中で約束をする例もあります。</p>
<p>4、通貨のタイプや名前に決定について。</p> <p>1) 通貨には紙幣、コイン、通帳、ICカードなど種類は様々なものがあります。</p> <p>2) 通帳はどういったサービスの交換がされたのか履歴がわかるという利点があります。</p> <p>3) 紙幣タイプは裏に署名やサービス内容を記入して流通するものもあります。</p> <p>4) 地域通貨には30分を単位とする通貨や1時間を単位とする通貨など千円札、5千円札のように分けているものもあります。</p> <p>5) 名前は地域になじんだ、覚えやすいものが一般的のようです。</p>
<p>5、地域通貨に有効期限をもうけるか、もうけないか。</p> <p>1) 有効期限を設定することにより、通貨が一部の人に偏ることを防いだり、流通の経過などを確認することができます。</p>
<p>6、地域通貨の流通を促進するために</p> <p>1) 交流会をひらき、実際に地域通貨を使った人の事例や感想を発表し合ったり、興味のある人にもそういった話を聞いてもらうのも効果的です。</p> <p>2) フリーマーケットを開催し、そこで地域通貨を使ってみると、幅広い宣伝効果にもつながります。</p>
<p>7、事務局は必要か、不要か。</p> <p>1) 地域通貨を進めていく上で、興味を持った人が気軽に参加できるのが理想です。そういった意味では問い合わせ先というのも重要になってきます。</p>

項目の6は地域通貨を開始してからでも、検討できる事項ですので、立ち上げる際に優先して取り決めるものではありません。